令和５年度

新野中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

① 生徒の思考を深め，表現力を育てる授業を実践する。

② 学校と家庭との役割分担による家庭学習習慣を確立する。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員

久米　英種
（教務主任）

委員

校長 岡田　栄司　　教頭　江﨑　道代
１年主任　幸田　明美
２年主任　中橋　郁代
３年主任　臼木　真知（研修主任）

校長

岡田　栄司

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等，様々な機会を捉え，取組状況の把握を行う。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み，学力の向上を推進

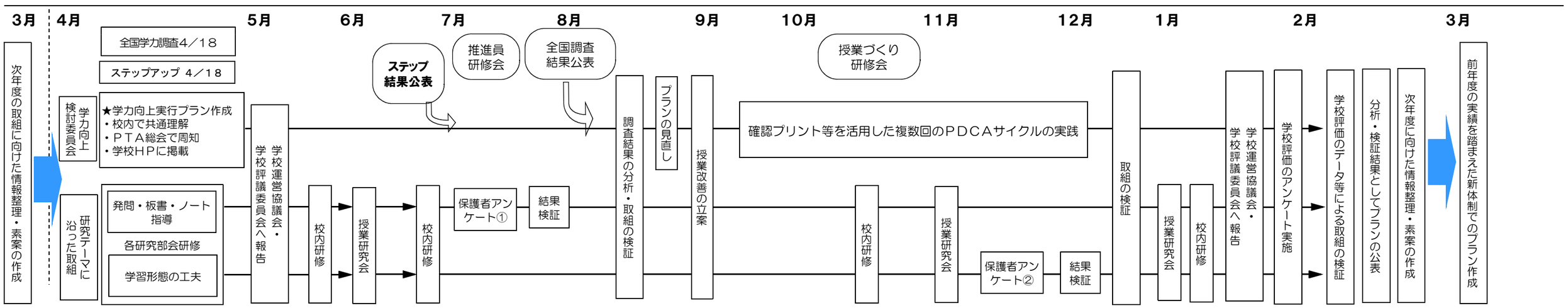
（1）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○決められた課題や，与えられた課題に対しては，素直にかつ真面目に取り組もうとする姿勢が見られる。 ●基礎基本の定着における個人差が大きい。また，長文問題や文章問題に対する苦手意識が強い。	①毎時間の授業に意欲的に取り組み，基礎的・基本的な知識技能を身につける。 ②課題提出を毎日することで基礎基本を着実に身につける。また，その力を使い，自らの課題を解決することができる。	①授業において，本時の学習目標を提示し，本時の振り返りを徹底する。 ②授業におけるワークシートや視覚教材を工夫し，わかる授業を実施する。 ③タブレットを効果的に活用し，基礎基本の定着を図る。		①本時の学習目標の提示は概ねできたが、本時の振り返りが不十分な教科もあった。 ②数学プリントや英語ドリル等の課題を使用し提出率が90％を超えた学年もある。視覚教材やワークシートの活用で授業がわかる生徒が増えた。 ③ICTの活用により授業がわかりやすいと答えた生徒は８７％であった。	①学習目標の提示し，本時の振り返りについては今後も徹底を図る ②基礎基本の事項を繰り返すことにより、学習に主体的に取り組む姿勢を育てていく。 ③ICT活用については一定の効果が見られたが、今後も有効な活用について研究を進める必要がある

（2）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○「わかりたい・理解したい」という意欲はあり，グループ活動等の小集団の中では，少しずつ自分の意見を発表することができる生徒が増えてきている。 ●自分の課題や目的に応じて聞き取ったりまとめたりする力が弱く，自分で考えるより先に教師や正答に頼ろうとし，自分の考えや意見を表現するのが苦手で，言葉や文字を通してのコミュニケーション能力が不十分である。	①TPOに応じた言葉遣いや行動がとれる。 ②根拠や資料をもとに考えを深め，目的に応じて書いたり，発表したりすることができる。	①手本やマニュアルを作成し，発表することに対する抵抗をなくすため，授業だけでなく，意見交換会など様々な場で発表する機会を増やす。 ②授業の中で身近なテーマを取り上げたり，活動的な内容を工夫したりして，積極的に学習に取り組める機会を増やす。 ③思考力を深めるためにＩＣＴを効果的に活用する。		①全体の場で発表する機会をできる限りたくさん確保したことで，概ね達成できている。 ②生徒は授業で学んだことを生活の活用できていると答えた教７５％であった。 ③外部講師によるプログラミング学習や他校とのオンライン学習など、タブレットを利用し，個々の生徒の課題に応じた個別学習を進めることができた。	①上学年の発表の場を見聞きすることで参考や手本にし，進め方ややり方を習得させる。 ②対話を通した深い学び合いができるように工夫する。 ③今後も外部人材を活用しながら、学びの機会を増やす。またオンライン等による他校との交流学習等を設け，互いに高め合うようにする。

（3）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○授業中の態度はだいたい良好で，与えられた課題に対しては真面目に取り組むことができる。 ●授業中に答えがわかっていても，自ら進んで発表する生徒が少なく，様々なことにおいて受動的な態度が多く見られるため，自ら課題を見つけたり，自主的に計画を立てて家庭学習を行ったりする習慣が確立していない。 ●家庭でのゲームやスマホの利用時間が長く，家庭学習の習慣が定着して	①苦手な部分や厳しいことから逃げずに根気よく取り組むことができる。 ②目的意識を持って自分のやるべき課題を見つけ，課題解決に向けて意欲的に取り組むことができる。	①様々な感動を与え，生徒の活動や学習に対する目的意識や意欲を高めるため，体験活動や講話などの機会を与える。 ②生徒自らが十分に考える時間を与える。 ③タブレットを活用し，家庭学習の充実を図る。		①基礎基本の定着を図ることで「達成感」「自信」「自尊感情の育成」につなげた。 ②生徒がしっかりと考える時間が十分に確保できないこともあった。 ③タブレットの効果的な活用で視聴覚に訴え，より充実感のある学習活動を進めることができた。	①キャリア教育の充実をめざし，自己の生き方，将来の展望を持たせることができるよう工夫し，系統的な学習計画を組む。 ②③次年度もより効果的な指導方法を考え，生徒に成就感を持たせるようにしたい。

令和５年度　学力向上ロードマップ